

国立大学法人三重大学の平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

三重大学は、建学以来の伝統と実績に基づき、基本的な目標として掲げる「三重の力を世界へ：地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す～人と自然の調和・共生の中で～」の達成を一層確固たるものにするため、その実践に努めている。第2期中期目標期間においては、幅広い教養の基盤に立った高度な専門知識や技術を有し、地域のイノベーションを推進できる人財を育成するための「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、「生きる力」の「4つの力」を養成すること等を目標としている。

この目標達成に向け学長のリーダーシップの下、教育のグローバル化を進展させるため、海外の学術協定大学から短期間外国人教員を受け入れる「外国人教員短期招へいプログラム」によって招へいた教員による学生への教育・研究指導や海外留学への助言・支援等を行うなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（機能強化に向けた取組状況）

教員の流動性を高めることにより大学の組織全体の活性化を進めるため、年俸制導入に向けた関連規程等を整備するとともに、国際的に活躍できる人財の育成や国境を越えた共同研究への取組として、「英語特別プログラム」担当の特任教員の雇用や海外トップレベルの4つの研究大学との学際的かつ国際的な共同プロジェクトの開始のほか、伊賀連携フィールド事業として、伊賀の文化（特に忍者研究）を発信発展させる事業や欧州巡回ツアーによる日本文化発信事業を行っている。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

（1）業務運営の改善及び効率化に関する目標

（①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化）

平成26年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 教養教育を充実させるための組織整備

幅広い教養の基盤に立った高度な専門知識や技術を有し、社会に積極的に貢献できる人財を育成するため、学長主導のもと教養教育を担当する組織として、15名の専任教員による全学体制からなる「教養教育機構」を新たに設置しており、FD（ファカルティ・ディベロップメント）の実施や担当教員が作成した授業計画書のチェック、及びシラバスのチェックを行うなど、全ての教養教育科目を対象に教育方針や質の保証についての検証を行っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 10 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

- (①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 7 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- (①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 広報誌の配布拡大による広報活動の充実

一般市民向け広報誌「三重大えっくす」の部数を増刷（2万 5,000 部から 5万 5,000 部）し、これまでの配布先に加えて電車内の座席背面ポケットや東京の三重県アンテナショップへの設置により読者の拡大を図った結果、読者アンケートの回答が 1.5 倍に増加し、特に県外からの回答割合については倍増するなど、関西地区を中心とした大都市圏の読者が増加したほか、「大学での研究や取り組みが分かりやすく紹介されている」、「大学の努力がよくわかった」等の高い評価を得ている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 3 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

- (①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 省エネルギー等の取組の発展的継続

平成 23 年度より実施している「三重大学スマートキャンパス実証事業」において、ソフト・ハード両面からの活動である創エネ、蓄エネ、省エネの取組を行うことで CO2 を 27.3 %削減（対平成 22 年度比）したことなどにより、省エネルギー大賞（経済産業大臣賞）を受賞するなど、外部からの高い評価を得るとともに、実証事業による空調熱源のさらなる効率化といった改善点等を踏まえ、平成 26 年度から「スマートキャンパス」として事業を継続している。

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

○ 国立大学病院管理会計システムの利用における課題

会計検査院から指摘を受けた、国立大学病院管理会計システム（HOMAS）の継続的な利用に至らなかったなどの問題点について十分検討し、導入が予定されている次期システムを効果的かつ継続的に利用するために、次期システムの利用方針等を明確にするなどして、その利用に必要な体制の整備を図ることが望まれる。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 9 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるほか、平成 25 年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 教員免許更新講習の充実

教員免許状更新講習について、選択講習を教育学部の全教員に加えて人文学部、医学部、工学部、生物資源学部、学内共同教育施設等の教員が担うことで、総合大学として極めて多様なテーマの講習を揃えるなど、全学的に取り組む体制を構築している。

○ 海外の学術協定校の教員を活用した教育の国際化

教育環境の国際化を図り、教育のグローバル化を一層進展させるため、海外の学術協定大学から短期間外国人教員を受け入れる「外国人教員短期招へいプログラム」を導入し、インドネシア等 6 か国から 8 名を招へいしており、本プログラムによる招へい外国人教員が、専門領域での学生への教育・研究指導、英語による授業、学生の海外留学への助言・支援等を行った結果、短期留学する学生が増加している。

○ 地域特性を生かした教育研究活動の展開

人文学部では、伊賀連携フィールド事業として、生涯学習事業や留学生異文化体験事業、国際インターンシップ事業等を実施しているほか、伊賀の文化を発信発展させ

るため、忍者文化を紐解き日本研究の新たな分野として発展させるとともに、日本文化の国際発信を行っており、6回に渡り開催した忍者文化研究欧州巡回プロジェクト「レクチャー・デモンストレーション」では、ロンドンやローマなど各都市において多数の参加者を得ている。

附属病院関係

(教育・研究面)

○ バランス感覚に優れた医療人財の育成

医療職員が互いの役割や長所を認識し、共通のミッションを遂行するバランス感覚に優れた医療人財を育成するため、1年目の全医療職員(研修医、歯科研修医、看護師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、合計95名)を対象とした「多職種連携チーム医療シミュレーション」を実施し、参加者は16のチームに分かれてアドバンスト OSCE (Objective Structured Clinical Examination) に取り組んでいる。

(診療面)

○ 発展途上国に対する医療支援

「国際医療支援センター」において、タイ、ミャンマー、イラクから医師や看護師を受入れて臨床研修を実施するとともに、教授がミャンマー等へ赴いて、約80回にわたる教育的指導手術を行うなど、発展途上国に対する医療支援を行っている。

(運営面)

○ 効率的な病床稼働及び増収に向けた取組

効率的な病床稼働及び増収を実現するため、全診療科の科長や医長を対象とする病院長ヒアリングを開催し、病床の稼働状況を踏まえ、年度目標達成に向けた進捗状況の確認を行ったほか、病院全体会議における目標達成意識の啓発や診療科や職種単位でのヒアリング等、病院一丸となった継続的な取組を行った結果、最終的な病院全体稼働額は対前年度で約5億円の増額となっている。